

令和6年度第2回北海道立帯広美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和7年（2025年）2月27日（木） 13時30分から15時30分
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 加賀学（会長）、今野典之、笹島香織（副会長）、今木由香、佐藤寛之、持田誠、中村博明、若林洋 計8名（欠席 松岡準志、後藤眞美子、伊藤美也子、野祥子）
- 4 事務局 川端雄一（館長）、友田浩貴（副館長）、瀬戸厚志（学芸課長）、吉田昌代（主査）、鎌田大遙（主事）
- 5 傍聴者 なし

6 議 事

- (1) 令和6年度事業の実施状況について
- (2) 令和6年度美術館評価（暫定版）について
- (3) 令和7年度事業の運営計画について
- (4) 協議・意見交換
- (5) その他情報提供
 - ・「第4期北海道立美術館等作品収蔵計画」の中間評価について
 - ・高校生等の美術館等利用促進施策について
 - ・ミュージアムショップのキャッシュレス化について

7 議事録

- (1) 令和6年度事業の実施状況について
- (2) 令和6年度美術館評価（暫定版）について
- (3) 令和7年度事業の運営計画について
- (4) 協議・意見交換

(1)～(3)について、事務局より説明及び委員からの質問等に対し、事務局から回答

委 員：キャンパスパートナーシップ制度の該当がないというのは、今年度は工事などの影響もあって、積極的に募集を行っていないということか。

事 務 局：キャンパスパートナーシップ制度は、当館を含めた全道の道立美術館で継続的に行っているものであり、今年度工事があったために、当館では募集していないということではない。本制度は、当初の制度設計から時間も経過しており、学校が払う年間観覧料に対して、実際の学生の利用が少なく、全道的にも活用が低調な状態にある。このため、本制度がより学校にとって、利用しやすいものになるような改善を本庁で検討しているが、現在ところ結論が出ていなく、当館としても積極的な利用を働きかけることがしにくい状況にある。

委 員：最近、関東地方では、美術館などの入館料が一般で2,000円から3,000円と、従来

に比べ高騰している一方で、逆に大学生には、パートナーシップ制度の利用が定着してきているみたいだが、北海道の学生が東京に行くと、飛行機代もかかるし、パートナーシップの恩恵も得られない。今後、関東のように道内の博物館、美術館の展覧会の価格も少しずつ上がって行くと、このような制度の効果が出てくると思うので、経過を見守りつつ、伸ばしていただきたい。

全体的な報告を聞いていて、工事などで非常に厳しい環境の中、特にコレクションの図録を2冊発行するなど、かなり努力量の多い年だったのではないかと見受けられるので、現在、中間評価でBとなっている部分も、メンテナンスや調査研究に係る部門は、年度が完結した時点でA評価としてもよいのではないかと。

委員：4ページの展覧会別観覧状況の団体の欄で、例えば帯広美術館コレクション選Iでは、高大学生が17名とあるが、これは、9ページの「(16) 学校教育との連携」における対話型鑑賞授業や総合的な探求の時間における、帯広三条高校の人数と考えてよいか。

事務局：9ページの「学校教育との連携」における帯広三条高校の事業については、当館から学校に出向いて授業に関わったものであり、生徒が観覧に来たものではない。この17名については、本展覧会において、本来高校生にかかる観覧料をボランティア団体の事業により無料招待を行ったために、団体料金として取り扱ったもの。

委員：来年度、中島みゆき展が計画されているが、中島みゆきさん本人が来る予定はあるか。

事務局：本人が来る予定はない。

委員：やはり、難しいのか。

事務局：これまで東京と大阪で開催しているが、どちらの会場にも、本人が来られるということは、実現していない。

委員：SNSによる情報発信について、Facebookを運営をしている会社とInstagramやThreadsを運営している会社は同一で、1度投稿すると3つ同時に配信できる仕組みがあるはずなので、活用できるのではないかと。調査会社の方と話をしていると最近ではFacebookより女性はInstagramの方に投稿していると言っていたので、的を絞るならInstagramやThreadsの方が便利なのではないかと。

事務局：Facebookに投稿するとInstagramなどにも投稿されるということか。

委員：Facebookでは、個人ページとFBページが用意されていて、FBページからだとInstagramに同時投稿でき、個人ページを使う場合は、Instagramから投稿すると、FacebookとThreadsに同時投稿する機能があると認識している。

事務局：現在当館では、FacebookとXの投稿を使い分ける場合もあるし、内容が重複する場合もあるので、XとFacebookにそれぞれ同じ投稿作業を繰り返し行っている状況があるが、これをInstagramで効率的に行うことができるのであれば、そういったことも今後、参考にさせていただきたい。

(5) その他情報提供

- ・「第4期北海道立美術館等作品収蔵計画」の中間評価について
- ・高校生等の美術館等利用促進施策について

・ミュージアムショップのキャッシュレス化について

事務局より説明後、委員からの質問等に対する事務局からの回答及び協議・意見交換

委員：本日、こちらに来たときに、美術館の館名が刻印された石版が割れていた。先日の雪害によるものなのか。今後、修繕が考えられるが、美術館なのでそれすらも美術化してしまうというのも1つの視点なのではないか、また、それ自体が修繕によって無くなることも、1つの作品になり得るのではないかと思った。

事務局：詳しいことは申し上げられないが、事故により破損してしまった。美術館の顔ということもあり、今後、修繕を予定している。

委員：収蔵計画に関わって、令和6年度帯広美術館では、作品一覧にある8点を購入するということか。

事務局：評価額として金額を記載しているが、購入ではなく、寄付の申し込みをいただいたものである。

委員：収蔵計画ということであるが、美術館で絵画などを購入する際の予算は、各館に平均的に来るのか、それとも、ローテーションで割り当てられるのか。

事務局：決まったローテーションはないが、各館の学芸課長が集まって情報交換を行いながら、緊急性の高いもの、今買わなければ、もう手に入らないかもしれないというような事情のあるものを中心に、各館ごとの偏りがないよう配慮しながら、等しく恩恵が行き渡るよう選定を行っている。

委員：当町では、廃校になった小学校に収蔵されている絵が何点かあり、地区で所有している作品を学校がお預かりして展示していたものについて、学校が廃校となったときに、その元所有者が解散しており、所有者が宙に浮いた状態でずっと廃校舎の中に留め置かれた状態で数年が経過したことがあった。全道的に小・中、高等学校の廃校が進んでいて、その校舎にも、かなりの数の作品が取り残されているのではないか。美術館が直接それらを収集していくと大変なことになってしまうが、市町村と収蔵の分担を行うとしても、まずは、道立美術館の主導でそういったものの現況を把握することについて、本収蔵作品計画に加えていただけないか。

特にここ3年ぐらいで、道東は温度と湿度が高くなってきており、急速にそういった資料の劣化が進行しているので、その辺りの検討をしていただきたい。

もう一点、コレクションギャラリーの展示は、基本的に特別展の展示のテーマに合わせて、内容や順番を決めているのか。

事務局：まず、廃校舎の美術作品の調査について、帯広市内については帯広百年記念館とも協力し、都度、調査を行っているが、道東一円若しくは他市町村となると、まだ状況が掴めていないところ。

地域の美術ということは、我々の調査対象でもあり、展覧会を通じて、学校から作品を借用するということも行っているのですが、これから調査研究を進めて、地域全体の基礎資料の様なものを作っていく必要があると認識している。

2つ目のコレクションギャラリーの内容については、必ずしも、特別展と連動させているということではないが、例えば、サンリオ展にはおそらく若い親子が来ていただ

ける展覧会かと思うので、コレクションギャラリーも子供さんに見ていただけるような内容にしたいと考えている。ただ、コレクションギャラリーは年間を通じて、帯広美術館のコレクションの3本柱を満遍なく見ていただきたいと思っているので、他の期間については、プリントアートと地域の道東の美術と西洋の美術のジャンル分けをしながら運営をしているところ。

委員：たまたま来年度のコレクギャラリー展に乗り物の世界展があり、私は鉄道マニアなのでこれを楽しみに思っているが、今年でちょうど帯広駅が開業120周年なので、その10月21日にシーズンがかかっているといいと思ったが、そうになってないので、特別展との絡みなのかと思いお聞きした。

委員：参考までに申し上げますと、私の町でも廃校舎に眠っていた絵画や、町に寄贈された、或いは購入した絵画等が結構あり、現在、それを集めて、今年5月の連休明け頃に施設で展示しようと計画をしている。75点全部の展示はできないと思うので、本日その資料を持ってきて、どういう展示の仕方をしていいのか、あるいは、必ず展示したほうがいいものなどを帯広美術館の学芸員に見てもらおうよう、依頼したところ。

委員：今日の説明を聞き、SNSの活用やオンラインアート教室、または利用促進に関する様々な取り組みなど、この地域の文化・芸術の振興のために取組まれていることに頭が下がる思いでいる。ただ学校現場にいと、その取り組みの成果が、評価として現れるまでは、難しい壁がり、本当はこの評価はもっと高くてもいいのではないかと思っている。とは言っても、このオンラインアート教室の利用状況を見ると、帯広市内の小中学校の利用があまり進んでいない状況があるので、こういった取り組みについて、再度、各学校の校長先生方に周知していきたい。子供たちの思考力、表現力、想像力や発想力というのが今、学校現場で伸ばすべき力と言われており、この帯広美術館の価値はとても高いが、教育課程の限られている授業時数で、いかにその教育を成し遂げるかという中で、なかなか余裕がないという現実もある。

我々学校教育の現場でも、子供たちに身に着けさせたい力を、どういうふうにそれを組み合わせて、教育課程に落とし込んでいくのかということを考え、3月期になると、そういう次年度の活用の計画を立てるいい機会なので、早めに各学校に周知をして、この地元の施設を活用できるよう、働きかけをしていきたい。

今年1年間、委員を務めたが、色々な話を聞き、美術館というのはそこに当たり前にあるようなものではなく、我々もそれを守り育てていくという感覚も必要だと感じた。

委員：私はこちらで10年近く、しらかばの会のボランティアの活動をしてきたが、このような美術館協議会があることも、立場の違う多くの方が意見交換して、美術館の運営に携わっていたということも知らなかったので、この2年間で3回出席したが、美術館や皆さんの貴重な意見を伺い、しらかば会の立場として、美術館により協力できるようにということを特に感じたので、これから、しらかばの会の色々な部門での活動において、協議会での経験を糧にして活動してまいりたい。

委員：まずは工事が無事に終わり、また美術展が開催されるようになったことが、何よりうれしいと感じている。初めての経験ということで、本当に展示がない美術館というのは、なかなかないと思うが、そのような中で今年度の当初、実行委員会に加わらせていただいた星野道夫展が盛況に終わったことを、うれしく思っている。そこでいろんなお話をさせていただいたし、協議会に参加させていただいて、それ以外の様々な事業のことも勉強させていただいた。

また来年度は、中島みゆき展をはじめ、沢山の展覧会が予定されており、非常に期待しているし、中でも先ほどしらかばの会で対応されるキャッシュレス決済の話もとてもいいことだと感じている。

やはり、今、キャッシュレス決済が当たり前になっているので、そうやって気軽に手に取って買ってもらえることが、その活動の一助になるのではないかと思うので、今後、それについても見させていただきたい。

(各委員から、任期を振り返っての挨拶)

委員：1年間という短い任期だったが、いろいろな話を聞いて、この美術館を我々の地域の重要な施設として、学校現場含め皆さんで、守り育てていくという気持ちを持った。来年度の展示も非常に楽しみにしており、個人的にも鑑賞していきたいと思っている。

委員：2年間この貴重な会議に出席して、とても勉強になった。令和7年度は、中島みゆき展とサンリオ展という大きな楽しい展覧会があるので、美術館と連携し、私はティールラウンジで活動しているので、コラボメニューなども発案していけたらと思う。

委員：人事異動のため任期途中で交代し、まだ2回しか出席していないが、任期が変わっても、選んでいただければ、またこの協議会に参加し、一緒に美術、文化について協議させていただきたい。

委員：今日私は、現在の特別展を見るのは5回目になる。友人が来たとき、それからうちの奥さんの友人が来たときに、その都度見に連れて来た。こういうふうにしなないと、やはり、美術館に来てもらえないのかなという気がするので、私はこれからもそういう人生を送りたいと思っている。

委員：2期の任期中、交付された招待券等を活用して、自分の周囲にいる方々にぜひ帯広美術館に足を運ぶよう、声かけをしたが、やはりアートに興味がない方に行っていたくことの大変さを感じた。公務員ですら、すごく渋るので、もう少し公務員の方には、公共施設に意識を向けていただきたいと感じた。任期中、まだ私ができること、美術館をサポートする活動を個人的にはしていきたい。

委員：帯広美術館には、プリントアートの特徴的なコレクションがあるが、現在、開催中の企画展も含めて、特に今年度のように、コレクションを中心に展示をするのが、その美術館のコレクションの魅力とその力量が一番問われるのではないかなと思うので、これだけのコレクションが今後生かされて、いろんな方に知っていただけるようになっていくことを期待したい。

当町からだ自動車1時間、バスを乗り換えてだと、2時間弱ぐらいかかるので、町の人は帯広に美術館があるっていうのは知っているけれども、お父さんの介護が終わ

ったら美術館に行きたいとか、そういう方が多い。また、子供たちも学校に美術クラブがあるような人数ではないので、高校に入って、美術館に行けるようになったと喜んでいの子がいるので、そういった物理的に距離がある郡部でも、この美術館とのアプローチがもう少し縮められるような方法がないかなということ、今後、考えていきたい。

委員：コロナ禍が明けて、いよいよ人が動き出したときに、どのくらいの来館者があるのかと思っていたが、4ヶ月の休館もあったが、やはり美術館も教育機関として、地元の人たちに愛されてる、人が結構来ているなという、そういう取り組みが沢山あったし、コロナでオンラインが普及し、今や人々の行動がオンラインで動くことも多くなったが、それにうまく対応されていると感じた。そういうこともあって、心配することなく、美術館には、老若男女が足を運んでくださっているんだというのが、この2年間でよくわかった。

私は、短大で勤めているが、去年から、文化財の科目を持っているので、学生には、博物館、美術館に行ってレポートを書いてくるように言っている。そういう若い世代、特に高校生も色々なものを見て、刺激を受けて欲しいと思っているが、そういうことも含め、自分も教える立場にありながら、協議会では、色々なことを皆さんに教わったという気がしているので、これからも社会教育としての地域活動に携わっていければと思っている。

委員：会長という立場で協議会を運営して、少しでも、この協議会で委員から出た意見が、今後の帯広美術館の運営等に生かされればいいと思っている。

当町は2年ぐらい前から中学校に美術部がない。それまでは学校の壁に美術部の生徒の書いた絵があったり、給食の配送車の側面に美術部の生徒の書いた絵があったり、非常に美術部の活動が盛んだったが、少子化で生徒数が減っているということもあり、美術部に入る生徒がいなくなって、2年程前から廃部になった。

今、教育現場では、中学校の部活動の地域移行という、非常に難しい課題があり、子供も減っているし、子供が減れば先生も厳しいということで、このままの状況で部活動を維持していくことができないので、学校の部活動を地域に移行していこうといった動きがある。

特にうちのような小さな町ではなかなかそういった指導者がいないということになるが、そうした学校の活動を地域に移行にしていくなかで、小・中学生にアンケートをとったところ、中学校に美術部はないが、美術をやりたいという子が結構おり、指導者も地域になかなかいなかで、どう目指していけばいいのかが、非常に頭の痛いところ。

先ほど他の委員からも話があったように、子供たちの成長にはやはり、表現力や想像力、そういった部分は非常に重要な意味があるので、帯広美術館を始めとした、芸術文化活動の活性化ということが、子供の成長のためにも、効果的に実施できればいいのではないかと考えている。